

新島村議会では、議員の能力向上と政策提案の充実を目的として、年に一度研修視察を実施しています。今回の協議で視察先は茨城県境町に決まり、発案した小久保議員が幹事を務めました。11月5日から6日にかけて、短い時間ではありましたが議員6名と事務局が参加しました。それぞれの議員の視点から報告いたします。

なぜ茨城県境町に？

令和元年に台風15号で甚大な被害を受けた新島村は、いち早くふるさと納税の災害支援寄付窓口を開設しました。その際に事務手続きの代理受付をしてくださったのが茨城県境町でした。境町は、ふるさと納税の寄付額が関東地方で7年連続1位、茨城県内では9年連続1位と高い実績を持つ自治体です。また「住みたい田舎ランキング」でも全国・関東で1位を獲得するなど、移住定住においても魅力的な取り組みを多く行っています。今回の議員視察では、茨城県境町の先進的な自治体運営や地域振興

の取り組みについて学びました。

茨城県境町ってどこ？

茨城県の南西部に位置し、埼玉県と千葉県の県境にも接しています。町内には利根川が流れ、豊かな自然環境に恵まれています。町内には利根川から比較的アクセスしやすく、町内の高速バスターミナルから東京直結の高速バスを利用すれば、東京駅まで最短90分（経由の王子駅まで最短55分）と交通の便が良いことが特徴で



す。面積は46・59km²、人口は2万3793人（2025年12月1日現在）。世帯数は約9501世帯であり、移住施策が奏功し、7年ぶりに人口増加を記録しています。

本当に走っていた？ 自動運転バス

吉見 一之

今回の視察目的の一つである自動運転(電動)バスについては、私は正直「自動運転と言っても、お茶を濁した感じなんじゃないの？」と懐疑的に考えていた。しかし違った、本物だった！ 時速15〜20kmで、定員10人程度のコロンとした可愛らしい車体が、トコトコと普通の道を一般車に混じって走っていた。道の駅を基点に1ルート約4kmで全3ルート、1ルートにつきバス停9〜12カ所、1日4〜5便の定時運行。高速バスターミナルと連結するなど考え抜かれたルート設定で、しかも無料である。今のところ非常用に1名のオペレーターが乗務しているが、運転はバスが自分で判断している。さらに、驚くべきことにこの町の町長は、諸々の手続き等はすつ飛ばし、とにかく日本で最初に走らせたい。結果！ まんまと我々のような視察団がひっきりなしにこの町を訪れ、視察ビジネスとして成立している。今視察は、何よりもこのぶっ飛んだ発想と、行動力に脱帽した視察であった。

1ルートにつきバス停9〜12カ所、1日4〜5便の定時運行。高速バスターミナルと連結するなど考え抜かれたルート設定で、しかも無料である。今のところ非常用に1名のオペレーターが乗務しているが、運転はバス



▲ユナイテッドアローズのプロデュースでラッピングされた自動運転バス